学年差は顕著でないが，男女別では女子の方がやや出席率がいいようである。昭和50年度の調査では，総合科学部1年次生の授業出席状況は，昭和49年度

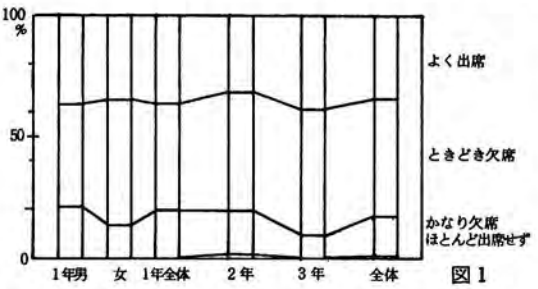


図1

には比較的よく，50年度に少し下がって，51年度はまた持ち直した印象がある。

問2. 欠席科目の種類では，「特定の科目のみ欠席」が26名，「科目の如何にかかわらず」が7名であった。

問3. 欠席の理由では，「サークル活動のため」が4名，「意欲減退」が2名，「その他」が3名であった。人数としては少ないが，ほとんど授業に出席していない学生や，科目の如何にかかわらず欠席しがちな学生が気になるところである。

問4. 授業への満足度に関して，「満足」を3点，「ふつう」を2，「不満」を1として平均をとると，図2のようになる。

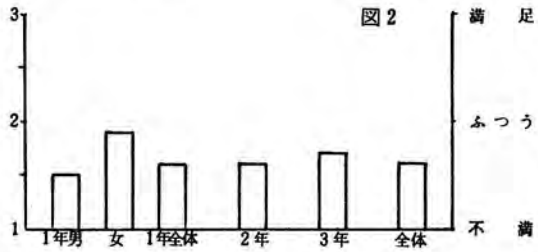


図2

三つの学年全体で授業に「不満」と答えたものが40.4%にものぼっている。学年差はあまり感じられないが，男女別では女子の方が満足度が高い。なお，昨年度の調査では，総合科学部生よりも他学部生の方が満足度が高かった。また，総合科学部1年次生の過去3カ年の比較では，問1と同様，50年度生の満足度がもっとも落ち込んでいる印象をうける。

問5. 授業への不満の理由では，「学生の理解に関係なく授業が進められる」がもっとも多く，ついで「退屈である」，その他となっている。

問6. 勉学への自発性では，「自発的に勉強している」を5，「一応学業に力を入れ勉強している」を4，「適当にやっている」を3，「あまり勉強していない」を2，「ほとんど自発的にはしていない」を1として平均すると，図3のとおりであった。

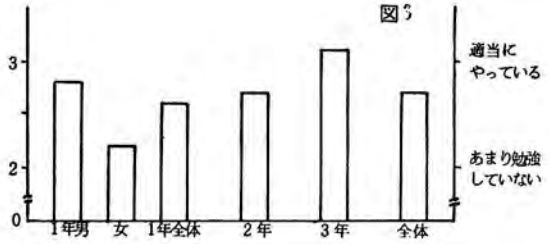


図3

概して自発的に勉強している学生は少ないようだ。回答者の中では，下級生よりも上級生，女子よりも男子が自発的に勉強していると答えている。過去3カ年間の調査を通じて，総合科学部49年度生の自発的傾向はややきわだっており，このことは他学部生との比較においても言える。

問7. 予復習時間（授業に直接関係した勉強の時間）は，1日平均で1年男子79.5分，女子58.0，1年全体73.9，2年80.6，3年98.4，全体80.4という結果がでた。個人差が大きいので一概にはいえないが，一般的に1時間から2時間位予復習をするのが普通ということになろうか。

問8. 読書冊数（教科書，雑誌，漫画等を除く）は，1カ月当たりで，1年男子4.9冊，女子3.8，1年全体4.6，2年3.0，3年4.4であった。この項もきわめて個人差が大きいが，昨年度の調査でも，49年度生は平均が高かったし，一般的に他学部生よりも総合科学部生の方が平均冊数は多かった。

2. 対人関係，予暇等

問9. 準拠集団の集計結果は図4の通りである。

一般的に，家族との結びつきを強く感じている学生は，低学年よりも高学年，男子よりも女子に多い。

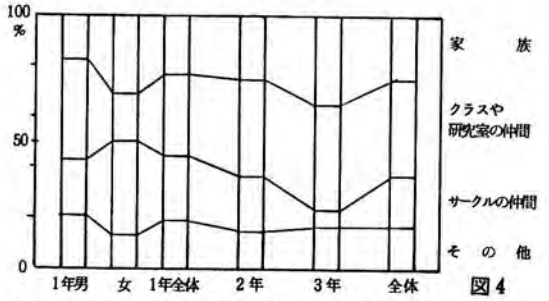


図4

学年差に関して，常識的には逆の傾向が予想されるところであるが，49年度生に関しては，サークル参加者が少ないこと，50年度生には女子が多いことが

関係しているかも知れない。また，クラスに帰属感を持っているものは，低学年よりも高学年，女子よりも男子に多い。昨年度の調査と比べれば，家族を選択したものは減少し，クラスを選択したものはふえている。

問10. チューターとの接触の状況は図5の通り。

上級生ほど比較的よく接触しているが，それでもなお，やむを得ぬときしか接触しない学生が多いようだ。男女差はあまり見られない。過去の調査では，他学部生よりも総合科学部生の方が，それも特に男子学生が比較的よくチューターと接触しているという結果が出ている。ただ，同じ学年のレベルで過去3カ年の調査結果を比較すると，最近になるほど学生とチューターの接触が希薄になっているようだ。

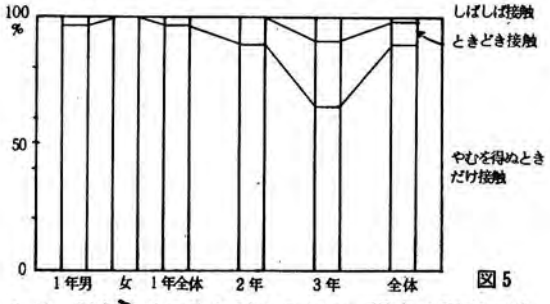


図5

問11. チューターと接触しない理由は，「特に必要を感じない」とするものがもっとも多いが，学年が上になるにしたがって，また，男子よりも女子に，「接触の機会がない」と答えるものが多かった。

問12. サークル活動への参加状況は，図6の通りである。

現参加者は，高学年よりも低学年，男子よりも女子に多い。また，サークルに参加したことがないものがきわだって多いのが，49年度生の特徴である。

これに対して50年度生は，他学部生と比べてもサークル参加率が高い印象がある。

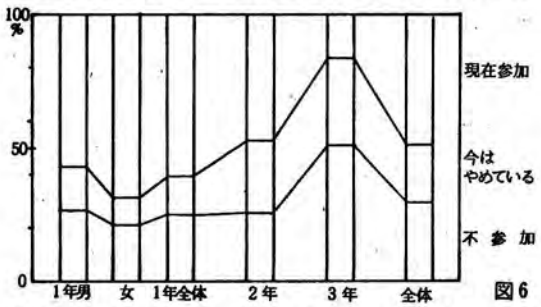


図6

問13. サークル活動への満足度では，36.4%が「満足」，40.9%が「ふつう」，22.7%が「不満」と答えている。

問14. 余暇利用の状況では，「音楽，美術等の鑑賞，演奏，創作」と「なんとなく過ごす」がそれぞれ19.4%でもっとも多く，「小説等の読書」18.3，「日常できない雑用」11.7，「授業以外の研究，学習，交友」11.1などがこれについでいる。うち，男女別では男子で「音楽，美術」，女子で「雑用」や「読書」が中心となっているようである。

3. 経済生活等

問15. 宿所の種類の集計結果は図7の通りである。

自宅外通学者が男子では約80%，女子では約60%となっている。過去3か年間の調査を通観すると，49年度生に自宅外通学者が多いこと，51年度生の女子に自宅通学者が多いことが目立っている。

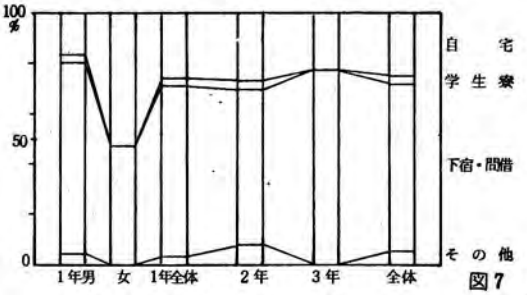


図7

問16. 通学時間（片道）は，全体の平均で27.0分，30分までのものが80.3%である。学年差はあまり感じられないが男女別では，女子に自宅通学者が多いせいか，やや通学時間が長い傾向がある。

問17. 宿所の満足度では，全体の平均で「満足」と答えたもの28.6%，「ふつう」42.3%，「不満」29.1%であった。

問18. 宿所への不満の理由では，「通学に不便」が25.4%でもっとも多く，「部屋が狭い」18.6%，「建物や設備が悪い」15.3%と続いている。

問19. 学生生活費の出所は，「父母」が93.8%と大部分を占め，「アルバイト」5.6%がそれについでいるが，「父母」と答えたものは，どちらかと言えば，高学年ほど少なかった。

問20. アルバイトの状況では，全体の合計で「定期的」にやっているものが36.3%でもっとも多く，「やらない」28.6%，「必要な時，条件のいい時やる」18.7%，その他と続いている。「毎日」あるいは「定期的」にやっている学生は，1年生で29.6%，2年生39.7%，3年生54.8%と高学年になるほど多く，男女別では，男30.5%，女53.8%と，女子の方が多い。

問21. アルバイトと学業に関しては，「両立して

いる」が50.7％，「どうにか両立」が41.1％，「両立していない」が8.2％であった。「両立している」と答えなかった者は上級生ほど多い。

問22. 経済生活への満足度は，「満足している」が20.9％，「ふつう」49.7％，「不満」29.4％であった

4. 進路

問23. 所属学部への満足度では，「満足」が12.2％，「多少不満」が75.6％，「転科，転学部したい」が1.1％，「他大学に移りたい」2.2％，「その他」8.9％となっている。進路変更を考えている学生は，49年度1年次生に20％もいたが，こうした傾向はその後ある程度おさまった印象を受ける。

問24. 進路変更希望者の所属学部への不満の理由は，「就職や進学に不利」が44.4％でもっとも多く，「自分の興味と一致しない」22.2％，「設備や教授陣が貧弱」16.7％，その他となっている。過去の調査と比較すると，「就職や進学に不利」が表面化して来たことが，今回の大きな特徴のように感じられる。

問25. 大学院への進学は，図8の通りである。

進学希望者は，予想通り，女子よりも男子に多い。

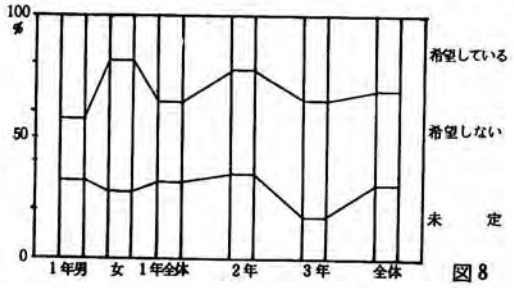


図8

例年春に行なっている「新入学生調査」と比較すると大学院進学希望者は減っている。

問26. 就職への希望は，図9の通りである。

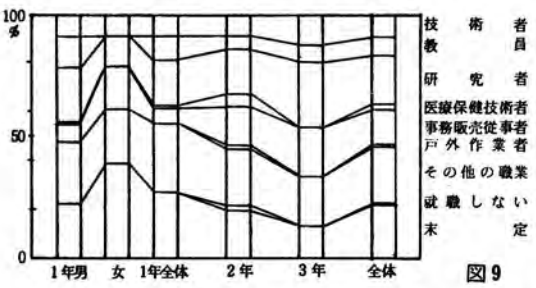


図9

第三志望までを合計すると，3学年全体で，「その他の職業」がやはりいちばん多いが，2番目に「教員」18.5％が浮かび上がって来る。もっとも，希望する職が実現できない場合は学校教員と考えているものが多いということであろうか。なお，「新入学生調査」も含めて，49年度男子に一貫して研究者志望の学生が多かったことは，一つの特徴と言うべきであろう。

5. 学生生活全般

問27. 学生生活への満足度では，「満足」が11.5％，「ふつう」62.6％，「不満」25.8％であった。

問28. 悩みは，自由記述式であるが，全体の合計で「勉学」関係の悩みを訴えたものが26.2％，「経済生活」関係20.0％，「対人関係，異性」15.4％，「進路」10.8％，その他となっている。学年別では，2.3年次生で「勉学」がもっとも多いのに対して1年生では「対人関係，異性」が第一位となっている。

問29. 最近力を注いでいることでは，1年生で「課外活動」25.8％，「交友，異性」22.6％，「読書」21.0％，「勉学，研究」19.4％，「人間形成，教養」12.9％，その他となっている。「その他」のうちでは，「力を注ぐものを見つけること」という記述がやや目についた。これに対して，2年生では，「勉学，研究」41.9％，「課外活動」34.9％のほかは目立ったものがなく，さらに3年生では，「勉学，研究」だけがきわだって多く，66.7％となっている。過去の調査においても，低学年では，読書，教養，課外活動，交友などが中心で，高学年になるほど勉学がクローズ・アップされて来る傾向が見られたが49年度入学の総合科学部生に関する限り，課外活動に力を注ぐものは一貫して少なかった。

問30. 学生相談室への要望では，「この調査の活用と改善を考えてほしい」が5名，「相談室をもっとＰＲすべきだ」が4名，その他，計15名（回答提出者の8.2％）と，この設問への回答者そのものがきわめて少なかった。これは従来の調査結果と著しく異なっている。昭和50年度には，「相談室のＰＲを（存在をよく知らなかった）」「もっと気軽に利用できる場所にしてほしい」など，計26名（16.7％）49年度には，同様に計47名（25.4％）から，要望，意見，苦言等が寄せられていた。

6. クロス集計，統計的検定の結果

過去3か年間の調査のクロス集計，統計的検定の結果は，学部，学年，性別構成など，サンプルの質が少しづつ違うため必ずしも一致しないが以下のことは比較的共通して言える特徴である。

学生生活に全体として満足していて，悩みをあま

り訴えていない学生は，授業そのものに満足している傾向があること。自発的に勉強していると答えた学生は大学院進学希望者が多く，予復習時間は長くて，サークル活動には不参加の者が少なくないこと。また，大学院志望者は男子に多く，サークル活動不参加者は上級生に多いこと。自宅通学の学生は通学時間は長いが，アルバイトをよくする傾向があり，どちらかと言えば女子学生に多いこと。授業によく出席している学生は，家族への帰属意識が強いと思われること，等である。

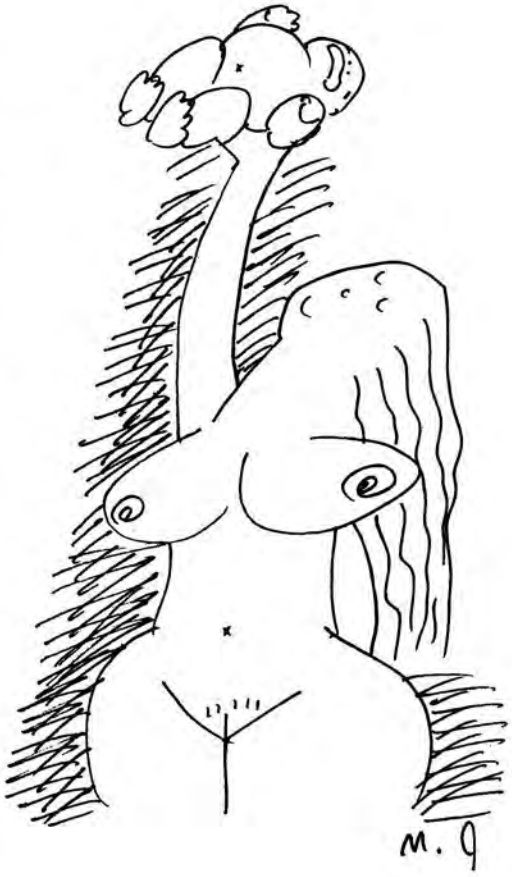
7. 調査を担当しての感想

昭和49年度に7月入学という変則的な形でスタートした総合科学部は，とくに初年度の学生において，転科転学部や他大学再受験希望者も多く，学部としての連帯感の形成にも困難があったが，その後，退学者の流れも，少なくとも表面的にはおさまり，学生達は学部に定着する傾向を見せて来た。これら，49年度入学の学生はまた，奨学金など経済生活やサークル活動等に関してもやや不利な立場に立たされたが，この傾向は今日まで尾を引いているものと思われる。その反面，総合科学部の理念に共鳴し，高い意欲を持つものも多く，大学院進学，研究者等を志望し，「飛翔」への投稿や編集参加にも表われたような，大学や学部のあり方に様々な関心，問題意識を示す学生も少なくなかった。

これに対して，昭和50年度以後に入学した総合科学部生は，女子学生や県内出身者の比率が高くなったことも関係してか，他学部生に対する顕著な特異性，個性も薄らぎ，広島大学の共同生活全体の中に溶け込んだ学生生活を送っているように見える。しかし，第一回生が，不景気，就職難の時代に就職，進学の時期を迎えたこともあって学部全体に進路への不安がやや表面化しつつある印象は否定できない。

総合科学部生の進路不安が，昭和51年4月前後に1つのピークを見せたこと記憶に新しい。この頃，最高学年のカリキュラムに予定科目の開設遅延などが目立ち，また，就職戦線の予想以上のきびしさや大学院設立への困難な状況も学生に伝えられるなど，総合科学部生にとって，学部への信頼をゆるがせる材料が相ついだ。そうした中で各コースや，コース講座，就職，大学院等の委員会の並々ならぬご努力は学生にも十分感じ取られたものと確信している。しかし，他方で，総合科学部の先生方の学部組織の充実や大学院創設への多忙な活動が，日常的な教育活動や学生とのコミュニケーションを，ともすればおざなりのものにさせがちなのではないかと，私は恐れる。

学生相談室としては，こうした困難な時期を総合科学部の教授団とともに，その一翼をになって克服して行きたいと考えているが，学部内での相談室活動への理解，支援が，特に物質的な面で十分実感として感じられないところに，私達の苦しみがある。できることならば，より大きな人的エネルギーと予算を割いて，こうした調査研究や，その結果を生かした相談活動等を推進して行きたいと念願しているのだが……。



「総合科学部歌」歌詞の審査結果

『飛翔』6号で既報いたしましたが，先般「総合科学部歌」歌詞が公募され，5名の方々から計9編の応募作がありました。7月6日，選考委員会が開かれ審査の結果，入選，佳作なしと決定されました。

昭和52年度春季学部長杯争奪ソフトボール大会について

前日の大雨のためグランドは水びたしであったが，参加者全員の協力によりグランドを整備し無事開催できたことを誠に有り難く思います。

当初参加チームは13チームを予定しておりましたが教職員チームと学生チームが1チームづつ棄権し11チームにより行いました。試合方法は11チームを4つの予選リーグに分けその中から，1位2位の2チームが決勝トーナメント出場という新しい方法をとりました。1試合5回戦とし，また，試合数が多いため，50分を制限時間としました。試合は特別賞に輝いた松本教官や，じゃじゃ馬賞の橋本さん（情報メッツⅡ）の活躍によって楽しく進行しました。結果は下記の通りです。　（文責　橋詰）

5月15日（日）　南グランド

9：30 A.Mより　予選リーグ

結果

Aリーグ

1位　桧原ー志村チューター・グループ

2位　情報メッツⅡ（4.3年）

3位　環境コースB（2年中心）

Bリーグ

1位　地域Z（3.2年）

2位　社会A（3.2年）

3位　岡本ー志郷チューター・グループ

Cリーグ

1位　社会ベアーズ（4年）

2位　渡辺ー多井チューター・グループ

棄権　情報（2年）

Dリーグ

1位　環境A

2位　地域A（4年）

3位　高崎ー小林チューター・グループ

〔環境Aと地域は，勝点が同じであるが，環境Aが得失点差が2点多い。〕

A

	桧ー志	情Ⅱ	環B
桧ー志		8–7 ○	14–4 ○
情 Ⅱ	7–8 ×		9–2 ○
環 B	7–8 ×	4–14 ×	

B

	地Z	社A	岡ー志
地 Z		5–0 ○	1–1 △
社 A	0–5 ×		11–3 ○
岡ー志	1–1 △	3–11 ×	

C

1. 社会　16－2　渡辺ー多井

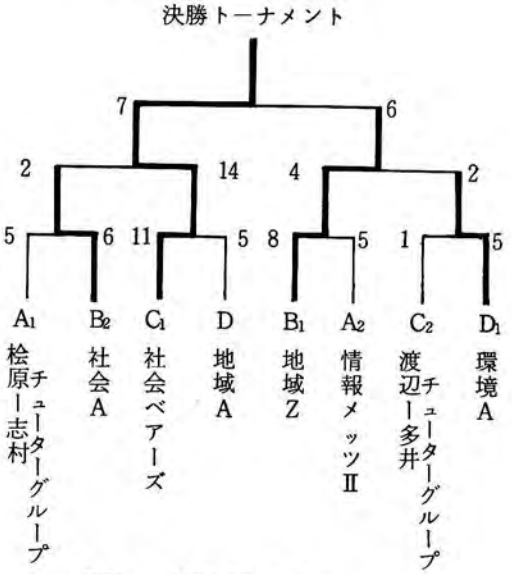
2. 社会　8－2　渡辺ー多井

D

	環A	地A	高ー小
環 A		7–7 △	9–0 ○
地 A	7–7 △		9–2 ○
高ー小	0–9 ×	2–9 ×	

2：00 P.Mより

決勝トーナメント



優勝　社会ベアーズ

準優勝　地域Z